

徒然草 　　ある人、弓射ることを習ふに

①ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。  
がを　　時　　二本の矢手に挟んで持つ　　向かった

②師の　いはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。  
が言うことには　　は　　はならない

③のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。  
後　　初心の人は　　頼りにし　　いいかげんに思う　　が生じる　　からだ

④毎度　ただ　得失　なく、  
矢を射る　　毎回　　ひたすら　　当たるか外れるかを　　考えること

この一矢に　定むべしと思へ。」と言ふ。  
で　　当てよう　　思いなさい　　言つた

⑤わづかに　二つの矢、師の前にて　一つをおろかに　せんと思はんや。  
この弟子は　　わづかに　　なのだから　　で　　しよう　　思うだろう　　か　　いや、思わ

⑥懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。  
なまけおこたる　　は　　ない　　いつ　　ても　　は

⑦この戒め、万事　に　わたるべし。  
教訓　　は　　全てのこと　　共通すること　　だろう

⑧道を学する人、夕べには朝　あらんことを思ひ、  
仏道　　修行する　　は　　夕方　　翌日の　　が　　あるという　　考え

朝には夕べ　あらんことを思ひて、  
翌　　その日の　　が　　ある　　という　　考え

⑨重ねて　ねんごろに　修せんことを期す。  
次の機会に　　何度も　　丁寧　　修行するよう　　な　　当てにする　　※副詞も有り

重ねてねんごろに修行しようと思うんだから、いつもいつも修行のことを考えていて、気を抜く時があるはずがないと思ってしまう。

⑩いはんや　一刹那のうちに　いて、懈怠の心あることを知らんや。  
まして　　瞬間　　なまけ　　が　　いや、自覚しない　　副詞

⑪なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだかたき。  
どうして　　瞬間　　修行を　　が　　非常に　　難しいのか　　副詞